

《ある司祭の話》

おはようございます、お元気ですか？

自分の同級生であったある司祭の話から始めたいです。ある日、その友自身が体験した信仰の体験について聞く機会がありました。その時聞いた話が、今ちょうど皆様に必要な話じゃないかと思ったので、ご紹介させていただきます。その日、彼は日に涙を流しながら、「私は、今振り返ってみると、ものすごく難しい生き方、司祭の道を歩んできたんじゃないかと思う」と言いました。どうということかと聞いてみたら、彼はこのように言い続けました。

「自分は純粋な心で司祭になりたくて神学校に入り、一生懸命勉強し、いろいろな教えに従っていたけど、いつも楽しくなかった。何か自分にも説明ができない怒りが自分の中に常にあった。その理由もわからなかった。一生懸命に信者の方々に心をこめて、司祭としてすべき全てのものを見せながら頑張ってきたけど、心の中には楽しさとか喜びというものがなかった。その理由が全然わからなかった。たまに襲ってくる孤独感から逃げようともっと熱心に勉強をしたり、司牧に集中したりしたけれど、結局この心の中にはまったく説明が出来ない辛さがあった。そして、今まで歩まなくてはいけない宿命だと思った司祭職についても、『なぜ私はこの道を選んだのか、これが正しい選びなのか、若しかすると私は間違えて今までやってきたかもしれない』という迷いが続いた」

このような迷いが続くある日、ある親しい先輩司祭が、聖地巡礼に行ってみたらどうかというお誘いがあったそうです。そして、子供の時から愛してきた聖母の聖地を思い出し、1回も行ったことのないメジュゴリエを選んだそうです。

その友はこのように語りました。「一人で、ただ普通の信者の姿で、メジュゴリエの巡礼の客と一緒に係りの人が導く通りに従った。ある晩、ロザリオの祈りを捧げる時間があった。普通には5連（1環）捧げるが、ロザリオ30連（6環）を両手を挙げたまま捧げる時間だった。最後までついていけるかと心配もあったが、とにかくやってみようと思った。肩も手も指も痛くなり、マリア様に自分の願いを言う集中力を失い、祈りながらもいろんなことが頭の中に巡ってきた」

子供の時からいろんな傷が浮かびあがったそうです。家庭は貧しく、お金に余裕がない家だったそうです。頭もそんなにいい方じゃなく、他の子よりも何倍も勉強しないとついていけない位だったそうです。神学校に入るのもすごく苦しく、神学校の入学準備もいろんな恩人から助けをもらって、服を買ったりして入ったみたいです。神学校に入ってから、自分の小遣いがなく、信者の方々が静かに自分の袋に入れてくれたそうです。そして神父になってからは真剣にやっても、相手はそれを理解してくれなかった。相手のために全力尽くして、心を表そうとしても誤解されて責められた時も結構あったみたいです。そういう辛さがだんだん大きくなって、彼の心を痛めたことが分かることになったそうです。それで、不平を言い始めたそうです。

「神様！なぜ私はこのような人生を送らなければならないのですか？なぜ他の人と同じ条件であなただけの愛される息子として司祭職に務めることが出来ないのですか？」文句ばかり口から出てしまったそうです。その時、不思議なことが起こったそうです。30連が全部終わったところ、自分でもわからない涙が止まらずに出てきて、予想もしなかった言葉が口から出てきたそうです。それは、「私は罪びとです」という言葉だそうです。周りに人がいるのも構わずに、泣きじゃくりながら「私は罪びとです。私は罪びとです。赦して下さい」という半分は叫びのような言葉が何度も何度も口から出てしまったのです。「自分は今まで一回も罪がないと、いつも誰かのせいだと思ってきた。しかし自分が全然思わなかった言葉が出て来たので自分も本当に驚いた」そして彼が最後に言ったのは、「本当に、

そのときから祈るときはいつも幸せになる。祈りらしい祈りが自然に出てくる」という話でした。

皆様に質問します。赦しの秘跡を受けてから1年にならなかった方は手を挙げて下さいませんか。それ以外の方々、私は責めようとする話ではありません。真の悔い改めということは、誰かに言われて、「私、本当に間違えたかな？ 本当に悪かったかな？」ということによって出来るものではないし、それは意味もありません。真のことは自ら、奥から自分の知らない何かが出てくるのです。それによって「本当に私は悪かった。私はこんなに愛されたのに、いつも裏切り者だった」という告白が自然に出なければ、真の赦しの秘跡に与ることは無理ではないかと思えます。

皆様、どう思いますか？「私は罪びとです」という心が自然に奥から出てくるためには、何が必要ですか？ 厳しく申し上げます。この悔い改めの心も神様が許して下さいませんでしたら出てきません。そうしたらどうします？ 私達が出来るのはなんですか？ 悔い改める心さえ神様が許して下さいませんでしたら出来ないと言えどどうしたらいいんでしょうか？ 答えます。この前の待降節の黙想会で皆様に話しました。まず、祈る時間をとって下さい。何にも出来なくても、祈りの時間をとって、神様の前に立ってみてください。そのとき何を言うべきか、何をすればいいか迷わなくてもいいです。ただイエス様の前に立ってみて頂きたいんです。そのとき体験したことのない働きが、神様と皆様の間で起きます。そして本当に私達が悔い改めるところがあれば、必ず悟らせてくださいます。自然に神様から許しをもらわなければならないという心が自然に出てきます。これが祈りの力です。

皆様、四旬節がそんなに残っていないのですが、お勧めしたいことが一つあります。悔い改めの意味について、自分の愚かさによって間違えたことについて、隠したい自分の傷についてよく黙想してみして下さい。そして出来れば、この四旬節が終わる前に赦しの秘跡を受けて下さい。率直に言います。赦しの秘跡を受けなかったら、私達は喜びの復活祭を迎えることができません。確信します。

時間がなくてもわざわざ自分のことを思い出してみして下さい。それが四旬節の意味ではないでしょうか？ 私達は幸せにならなくてはなりません。いつもご聖体をいただいても、心で何の喜びも感じていないなら、そしてご聖体をいただいても全く同じだったら、それはイエス様のすばらしい力を無視してしまうことです。イエス様の御心の美しさ、喜び全てが自分のものになるためには、自分の心のドアを開けなくてはなりません。

ありがとうございました。